

研究発表会開催通知

(平成2年7月15日～8月31日)

研究会	日	時	会場	備考
アルゴリズム	7月16日(月) 7月17日(火)	13:00～18:00 9:00～14:30	北大	前号参照
情報システム	7月17日(火)	13:00～17:00	機械振興会館	同上
計算機アーキテクチャ	7月18日(水)	9:00～15:30	沖縄残波岬 ロイヤルホテル	同上
コンピュータビジョン	7月19日(木)	13:00～17:20	N T T	同上
ソフトウェア工学	7月19日(木) 7月20日(金)	9:00～17:00 9:00～17:00	弘前大	同上
データベース・システム	7月19日(木) 7月20日(金)	9:30～17:00 9:30～17:00	北大	同上
自然言語処理	7月19日(木) 7月20日(金)	10:00～16:15 10:00～16:15	同上	同上
グラフィクスとCAD	7月20日(金)	13:00～17:00	機械振興会館	同上
グラフィクスとCAD	8月17日(金) 8月18日(土)	13:00～18:30 9:30～16:30	浜名荘	下記参照

◆ 第46回 グラフィクスとCAD研究会

(発表件数: 15件)

(主査: 中嶋正之, 幹事: 宇野 栄, 西原清一, 守屋慎次)

日 時 平成2年8月17日(金) 13:00～18:30
8月18日(土) 9:30～16:30

会 場 浜名湖保養所 浜名荘

(静岡県浜名郡舞阪町弁天島乙女園 994-1, JR(新幹線): 浜松または豊橋下車, 東海道線: 弁天島下車, 徒歩20分 あるいはタクシー5分, Tel. 05359(2)0668)

議 題 第4回 グラフィクスとCAD 集中研究集会

「人物のモデリングと表示技術」

グラフィクスとCAD研究会では、研究者・技術者相互が質の高い集中的な討議と情報交換を目的とする活動として、標記集中研究集会を開催いたします。この集会は、選択されたテーマについて参加者全員が発表と討論を集中的に行うとともに、浜名荘に宿泊してより深い討論を通じて研究者相互の親睦を図り、そのテーマについて結論あるいは見通しを得るために開くものです。

8月17日(金) —13:00～18:30—

(1) 開催の挨拶

中嶋正之(東工大)

●研究動向と展望(3件)

司会: 西原清一(筑波大)

(2) CGによる自然物体の生成に関する研究動向

中嶋正之(東工大)

〔概要〕CGによる自然物体(固体, 流体, 自然現象, 植物, 動物等)の生成技法について概観する。

(3) 三次元視覚センシング技術の研究動向

富田文明(電総研)

〔概要〕三次元物体の位置, 形状, 動きを測定するためにこれまで開発されている視覚センシング技術を概観する。

(4) 人物を対象とする表現技術の研究動向 間瀬健二, 渡部保日児, 末永康仁 (NTT)
〔概要〕 人物 CG におけるレンダリング技術の研究動向についてサーベイする。

●人体のモデリング表示技術 (3件)

司会: 宇野 栄 (日本 IBM)

(5) 一般逆行列による多関節構造体の動作入力システム

福井一夫 (NHK)

〔概要〕 人間や動物など多関節構造体の動作データを対話的に作成する動作入力システムについて報告する。

(6) 距離データの分布関数モデル表現に関する研究

村木 茂 (電総研)

〔概要〕 レンジファインダ等によって得られる距離データに分布関数モデルをあてはめ、物体モデリングを行う研究。

(7) 人体設計のためのソリッドモデラ機関拡張

宇田紀之 (三重大)

〔概要〕 開発中のソリッドモデラに、筋肉変形関数を組み込んで人体形状表現を試みる。

●顔のモデリング表現技術 (2件)

司会: 守屋慎次 (電機大)

(8) 固有顔による顔画像の記述

崔 昌石, 岡崎 透, 原島 博, 武部 幹 (東大)

〔概要〕 顔画像の効率的な記述のため、基底となる固有顔を求める。固有顔は顔の形状とテクスチャの直交変換により求める。

(9) 複数の画像を用いた頭部の形状推定とレンダリング

栗原恒弥 (日立)

〔概要〕 複数の画像を用いて頭部の3次元形状を推定し、テクスチャマッピングにより現実感のある画像を生成する。

8月18日(土)

— 9:30~11:30 —

●頭髪皮膚のモデリング表示技術 (3件)

司会: 大野義夫 (慶大)

(10) ボロノイ分割を利用した生体皮膚の質感表現に関する研究

石井智海 (花王), 倉地忠彦, 安田孝美, 横井茂樹, 鳥脇純一郎 (名大)

〔概要〕 生体の皮膚の表面、幾何学形状を表現するのにボロノイ分割を利用した方法を提案し、基本的な検討を行った。

(11) 人物頭髪像の生成

渡部保日児, 末永康仁 (NTT)

〔概要〕 三角柱と房のモデルを用いて頭髪像の複雑なテクスチャを生成し、同時に髪型をも制御できることを示す。

(12) 人体の質感と動作の表現方法

安生健一, 宇佐見芳明, 鶴沼宗利 (日立)

〔概要〕 人体の頭髪や皮膚の質感の表現方法と歩行動作のアニメーション作成に関する新方式を提案し、現状報告を行う。

—12:30~16:30—

●人物 CG 技術の応用 (4件)

司会: 寺嶋廣克 (日電)

(13) 投球動作と肩関節障害

吉川玄逸, 畑 正樹, 村上元庸, 福田真輔 (滋賀医科大)

〔概要〕 投球動作と肩関節障害の機序について医学的見地から考察する。

(14) ノンリニア変形の階層化による生命体のアニメーション

出淵亮一郎 (ハイテックラボ)

〔概要〕 ノンリニア変形を階層化することによる生命体のモデリング、アニメーション技術と人体への応用の可能性。

(15) 人体形状のモデル化・類型化とその被服設計への応用

堤江美子 (大妻女子大)

〔概要〕 人体の3次元計測結果から生成した形状モデルを分析することにより、適合度の高い被服原型設計案を考察した。

(16) 臨場感通信会議のための人物の色彩認識・合成

石橋 聡 (ATR)

〔概要〕 通信会議へ適用を目的に、人物の色彩・テクスチャの認識および認識結果に基づく色彩合成について報告する。

●総合討論

司会: 近藤邦男 (埼玉大)

人物を対象とするCG技術の問題点を探り、今後の展望を討論する。

この集中研究集会への参加ご希望の方は、下記までお問合せください（参加人数 25 名）

福井 一夫 NHK 放送技術研究所 画像研究部 Tel. 03 (415) 5111 (内 367)

間瀬 健二 NTT HI 研 視覚部 Tel. 0468 (59) 2870

主 査 中嶋 正之 東工大・工・像情報 Tel. 045 (922) 1111 (内 2081)

◆ 第 4 回 音楽情報科学研究グループ

(主査：平田圭二，幹事：鈴木 孝，増井誠生，志村 哲)

今回の、研究グループでは、8月31日～9月2日に立教大学にて夏のシンポジウムを企画しております。奮ってご参加ください。

8月31日(金) 14:00～16:00 見学(武蔵野音大楽器博物館)

9月1日(土) 9:45～12:00 研究発表(立教大)

13:00～15:00 チュートリアル(立教大) テーマ：ニューロ・コネクショニスト

16:00～20:30 現代音楽コンサート(池袋 studio 200) 嶋津武仁(福島大) プロデュース

9月2日(日) 9:45～12:00 研究発表(立教大)

13:30～15:00 講演会(立教大)

研究発表内容

●異種楽器音を含む楽音の自動採譜に対する一考察

長束哲朗，片寄晴弘，井口征士(阪大)

●音列予測のコンピューショナル・モデル

才脇直樹，片寄晴弘，井口征士(阪大)

●音群技法作品演奏支援システムの動作について

長嶋洋一(河合楽器)

●自動作編曲のためのデータ構造(仮題)

南高純一(カシオ計算機)

●表像主義以降の認知モデル 一聴音の錯覚を例として

堀井洋一(日立)

●音楽における「時空意」の統一場理論について

足立美比古(学芸大)

講演会：ポピュラー音楽における電気楽器の果たしてきた役割と展望

細川周平(東京芸大)

*夏のシンポジウムの参加希望者は、事前の予約が必要となりますので、案内説明書、申込書の請求を下記までお願いいたします。

松島俊明(日本 IBM) Tel. 03 (288) 8477

増井誠生(富士通) Tel. 03 (735) 1111 (内 2419) (masui@ias.fujitsu.co.jp)

平田圭二(ICOT) Tel. 03 (456) 3193 (hirata@icot.or.jp)

◆ オペレーティング・システム研究会

第 48 回 研究会を下記のとおり開催いたします。

日 時 平成 2 年 9 月 7 日(金) 9:30～17:00

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室

議 題 特集：並列・分散処理

並列・分散オペレーティング・システムとその実現機構，分散ファイルおよび名前管理，実時間処理機能など，並列・分散処理について，カーネルからプログラミング言語インタフェースまで幅広く議論したいと思います。Stanford 大学の分散オペレーティング・システム V-System については，システム全体の解説を予定しています。また，国内の分散オペレーティング・システムの開発プロジェクトから多数の発表があります。詳細なプログラムは次号(8月号)でご案内いたします。奮ってご参加ください。

◆ 数値解析研究会

第 34 回 研究会を下記のとおり開催いたします。多くの方の発表をお待ちしております。奮ってご応募ください。発表をご希望の方は，研究会発表申込み書(4月号欄末添付)に発表題名と発表者名，50 字以内の概要をご記入のうえ，7月31日(火)までに学会事務局研究会担当までお申し込みください。

日 程 平成2年10月6日(土)
会 場 KKR 甲府 ニュー芙蓉(山梨)

◆ 情報システム研究会

第31回 研究会を下記のとおり開催いたします。多くの方のご参加をお待ちしております。詳細は前号(6月号)をご覧ください。

日 程 平成2年10月16日(火)(発表申込締切 7月16日(月))
会 場 機械振興会館(予定)
特 集 情報システムの評価

● 上記以降の研究会活動予定

	日 程	会 場	テ ー マ	発表申込締切日
第32回	平成3年1月16日(水)	機械振興会館	未定	10月15日(月)
第33回	平成3年3月19日(火)	機械振興会館	なし(若手の会)	12月17日(月)

◆ 第79回 データベース・システム研究会 } 合同研究会
第26回 プログラミング言語研究会 }

上記の合同研究会を下記の要領で開催いたします。奮ってご参加ください。詳細は次号(8月号)でご案内いたします。

日 時 平成2年9月7日(金)9:30~17:00
会 場 機械振興会館 6階 67号室
議 題 特集: データベースとプログラミング言語

- (1) 新しいソフトウェアデータベースを目指して 富永和人, 徳田雄洋(東工大)
- (2) COBにおける持続性オブジェクトの設計と実現 三ッ井欽一(日本IBM)
- (3) 分散データベースの木質問の最適化 李 紅(リコー)
- (4) ソフトウェアエンジニアリングデータベース KyotoDB のオブジェクトモデル
鯉坂恒夫, 沢田篤史, 山下 薫, 松本吉弘(京大)
- (5) 柔軟なアブストラクションを可能にする持続的オブジェクトのための一般モデルの構築へ向けて
箕原辰夫, 本田耕平, 所真理雄(慶大)
- (6) Attribute Grammar Based Structure Evolution in Object Management System OOAG
譚 立朝, 篠田陽一, 片山卓也(東工大)
- (7) ソフトウェア要求定義・分析におけるオブジェクトマネジメントシステム 足立太郎(PFU)
- (8) パネル討論: 次世代データベースシステム宣言に向けて
ーソフトウェア・オブジェクトベース構築の立場からー
パネリスト: 増永良文(情報大), 田中克己(神戸大), 片山卓也(東工大)
所真理雄(慶大), 徳田雄洋(東工大)
デビッド ノトキン(ワシントン大/東工大)

第41回 全国大会（平成2年後期）概要について

- 開催期日** 平成2年9月4日（火）～6日（木）
- 会場** 東北大学教養部（仙台市青葉区川内）
- 参加費** 電子情報通信・電気・照明・テレビジョン各学会会員は本学会会員扱いとします。（賛助会員は正会員に準じます。）
会員 1,000円 非会員 2,000円 学生 無料
- 論文集予約** 7月10日（火）で締切りました。
分冊 定価各 6,000円
セット（6分冊一揃、講演者索引・カバー付）定価 36,000円
- プログラム** プログラムの詳細は8月号に掲載されます。
- 招待講演 1** （9月4日 12:30～13:30）
自然知能と人工知能 木村 正行（東北大）
- 招待講演 2** （9月5日 12:30～13:30）
21世紀の情報産業をめざして 西 和彦（アスキー）
- 一般セッション** （論文発表申込 885件）
- 懇親会** 第2日目（9月5日）18時より（仙台東急ホテル）
会費 3,000円（定員 150名）
- 展示会** ラップトップなどポータビリティに富む情報機器の展示会
（会場 東北大学教養部B棟2階自習室）
- 研究賞・学術奨励賞の表彰** 平成2年度研究賞（4回）および第40回全国大会学術奨励賞受賞者の表彰を本大会時に行います。
- 宿泊案内** 下記業者宛に申込みください。（学会事務局では直接取り扱いいたしません。）
- (株)日本交通公社** 国内・海外団体旅行新宿支店 営業第3課 担当：寮・吉尾
160 新宿区西新宿 1-18-8（新宿スカイビル4F）
Tel. 03 (346) 0161 FAX 03 (346) 0159
- (株)日本旅行** 新橋支店情報処理学会係 担当：大坂・金井
105 港区新橋 2-5-4 第一兼坂ビル
Tel. 03 (503) 2657 (代) FAX 03 (503) 8752
- (株)三 慶** 旅行事業部 担当：清水・鈴木
170 豊島区東池袋 1-25-17（ウエストビル2F）
Tel. 03 (987) 2631 (代) FAX 03 (987) 4659

第42回 全国大会（平成3年前期）の開催について

平成3年度春の第42回全国大会は下記により開催される予定です。大会実施要領は9月号本欄に掲載されますので、ご留意ください。

- 日時** 平成3年3月12日（火）～14日（木）
- 場所** 東京工科大学（八王子市片倉町）

学術奨励賞候補の推薦について

全国大会で優秀な論文を発表した会員の中から、大学学部卒業後 10 年未満（またはこれと同等）の若手の科学者・技術者約 10 名を選び、学術奨励賞を贈呈し表彰いたしております。

つきましては、来る 9 月 4 日～6 日に東北大学・教養部で開催される第 41 回全国大会での登壇発表者の中から、下記により受賞候補者 1 名をご推薦くださいますようお願いいたします。

また、第 41 回全国大会参加者には会場に推薦用紙を用意してありますので、会場でご推薦くださるようお願いいたします。

なお、受賞者の選定は学術奨励賞委員会（委員長 石田副会長）で行い、その発表と表彰は来年 3 月に開催の第 42 回全国大会（東京工科大学）時に行われる予定です。

記

選定範囲および推薦数

第 41 回全国大会で発表された優秀な論文の登壇発表者 1 名

推薦資格 本学会正会員に限る。

推薦方法 官製はがきに、推薦する論文の ①講演番号 ②題目 ③登壇発表者名 ④所属 ⑤出身校（学部）卒年 ⑥推薦理由および推薦者の氏名、所属、住所をもれなくご記入のうえ、本会学術奨励賞係あてお送りください。

推薦締切 平成 2 年 9 月 17 日（当日消印有効）

表彰規程（抜粋）

第 5 章 学術奨励賞

第 19 条 学術奨励賞は、情報処理に関する学問、技術の奨励のため、有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈する。

第 20 条 学術奨励賞を受ける者は、全国大会において優秀な論文を発表した者で、つぎの各号に該当する者から選定する。

- イ 選定の時期において本会会員であること（選定の時期とは、第 1 回の委員会開催時とする。）
- ロ 講演の時期において大学の学部卒業後 10 年未満の者またはこれと同等と認められる者であること。
- ハ 大会参加申込の際講演者として登録かつ講演を行った者であること。
- ニ 本奨励賞を受けたことのないものであること。

第 21 条 第 20 条の選定は、全国大会終了後速やかに行う。

第 22 条 学術奨励賞は、毎回約 10 名ずつ選定し、贈呈する。

第 23 条 学術奨励賞は、賞状、賞牌および賞金とする。

- 2. 賞金は、1 名につき 20,000 円とする。

「コンピュータビジョン'90 ～ビジョンと環境理解～ シンポジウム」開催について

人間にとって最も大規模な情報処理と言われる視覚処理の解明と、そのコンピュータ化を目指すコンピュータビジョンの研究は、コンピュータパワーの増大と共にますます活発化しています。本シンポジウムは、これらの研究発表と議論、さらに今後の研究動向を模索するための場を提供するものです。コンピュータビジョンに関する基調講演及び応募論文に加え、基礎理論のさらなる発展を期し、特にヒューマンビジョンに関する招待講演の特集セッションを設けました。ぜひ、多数の方々のご参加をお待ちしています。

コンピュータビジョン研究会

日 時	1990年8月22日(水)～23日(木)
場 所	筑波大学学生会館特別会議室
交 通	<ul style="list-style-type: none"> ●上野駅より常磐線、荒川沖駅下車(約1時間)、東口より筑波大学中央行きバス、学生会館前下車(約35分) ●東京駅八重洲南口より常磐高速バスつくばセンター行き、終点下車(約1時間)、筑波大学中央行きバス、学生会館前下車(約10分)
参加費	正会員 10,000円、学生会員 1,500円、非会員 15,000円(論文集のみ 4,500円(送料込))
申込締切	1990年8月3日(金)(定員 100名になり次第締切らせていただきます)参加受け付けは当日も行いますが、会場の都合もあり、ご希望に添えない場合もありますので、早目にお申込みください。
申込み先	106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 情報処理学会 コンピュータビジョン '90 シンポジウム係 Tel. 03 (505) 0505 FAX 03 (584) 7925

～ プ ロ グ ラ ム ～

'90. 8. 22 (水)

- | | |
|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 9:00～9:05 開会の挨拶 | 鳥脇純一郎(名大) |
| 9:05～10:05 セッション1 “基調講演” | 座長 鳥脇純一郎(名大) |
| ●環境理解の展望 | 谷内田正彦(阪大) |
| 10:15～11:55 セッション2 “動画像” | 座長 浅田 稔(阪大) |
| ●距離動画像を用いた非剛体運動パラメータの直接的推定法 | 山本 正信(電総研), ピエール・ボランジャー, アンジェロ・ベラルディン,
マーク・リュウ, ジャック・ドメイ(カナダ国立研究協議会) |
| ●信頼性の指標をもつ移動ベクトルの検出とオプティカルフロー計算への応用 | 太田 直哉(日電) |
| ●大局的最適化に基づく運動パラメータ推定と領域分割 | 森川 博之, 西郷 俊之, 原島 博(東大) |
| ●トランスピュータと簡易特徴抽出回路による画像処理装置 PCIS-X の開発 | 齊藤 文彦, 宮崎 吉弘(日本 IBM) |
| 13:00～14:40 セッション3 “3次元位置・姿勢検出” | 座長 金谷 健一(群馬大) |
| ●射影幾何学による PnP カメラ補正問題の統一的解法 | 出口光一郎(東大) |
| ●角度情報に基づく3次元物体の単眼視姿勢推定 | 尺長 健(NTT) |
| ●スパースな距離データを利用した多面体の姿勢決定の一手法 | 山本 裕之, 田村 秀行(キャノン) |
| ●移動ロボットビジョンにおけるアクティブセンシングの定型化 | 湯口 徹, 森 英雄(山梨大) |
| 14:50～17:30 セッション4 “立体復元” | 座長 横矢 直和(電総研) |
| ●非線形疑似ブルー計画法によるあいまいな二面図からの多面体の全合成と一意的合成 | 伊藤 潔, 佐々木康仁, 高橋 正充(上智大) |

- 幾何学的正則化による画像からの立体復元 淡 誠一郎, 角所 考, 阿部 憲広, 北橋 忠宏 (阪大)
- 適応型ウィンドウによるステレオマッチングアルゴリズム 奥富 正敏 (キヤノン), 金出 武雄 (CMU)
- 空間点列選択問題 井宮 淳 (千葉大), 角田 浩一 (金沢大)

’90. 8. 23 (木)

9:00~10:15 セッション5 “特徴抽出”

座長 横井 茂樹 (名大)

- 状態空間探索手法による濃淡画像からの連続エッジの抽出 西山 陽二, 阿部 圭一 (静岡大)
- 調和振動子モデルに基づく選択的エッジ検出 川上 肇 (日電)
- Hough 変換の拡張的再構築の試み 村上 和人 (名工研), 興水 大和 (中京大), 沼田 宗敏 (ロゼフ)

10:25~12:05 セッション6 “領域特徴・モデル”

座長 松山 隆司 (岡山大)

- エッジ情報と領域情報を統合した領域分割法とその3次元 CT 像への応用 江 浩, 鈴木 秀智, 鳥脇純一郎 (名大)
- 特徴量及び領域属性による対象物領域抽出とそれを用いた画像検索法 高屋 出, 池田 克夫, 美濃 導彦 (京大)
- 似顔絵師システム PICASSO 興水 大和 (中京大), 村上 和人 (名古屋工研), 中山 晶, 福村 晃夫 (中京大)

- 平行トップダウン処理方式におけるモデルの構成と適合度の評価 角 保志, 大田 友一 (筑波大)

13:10~15:00 招待講演特別セッション “ヒューマンビジョンのアルゴリズム-1”

座長 内藤誠一郎 (NTT)

- 視覚・色覚のアルゴリズム 杉江 昇 (名大)
- 視覚系における図地分化のアルゴリズム 行場 次朗 (信州大)

15:10~17:00 招待講演特別セッション “ヒューマンビジョンのアルゴリズム-2”

座長 田村 進一 (阪大)

- 運動視・ステレオ視のアルゴリズム 佐藤 隆夫 (ATR)
- 運動視の脳内機構 三上 章允 (京大)

17:00 閉会の辞

田村 進一 (阪大)

「コンピュータビジョン'90 シンポジウム」

参加申込書

平成 年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 1,500 円

* 参加費には, 資料代が含まれています。

○論文集のみ (4,500 円, 送料込) _____冊

○送金方法

* _____円を a) 当日, 会場受付にて支払います。

b) _____月 _____日送金します。

* (b を選択したかたのみご記入ください)

b-1) 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

(社) 情報処理学会 シンポジウム 係 Tel. 03 (505) 0505)

b-2) 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 太陽神戸三井銀行東京
営業部 4298739

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

・送金先銀行名 _____銀行宛

・送金取扱銀行名 _____銀行 _____支店より

・送金人名義 _____様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は 1 枚 1 人としてください。(コピーで申し込むこと)

.....
(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

所属名 _____

フリガナ

氏 名 _____ 殿 (登壇発表者は氏名の左上に)
○印をつけること

Tel. _____ (ex. _____) Fax. _____

「コンピュータビジュアライゼーションの最新動向」 グラフィクスと CAD セミナ開催について

コンピュータグラフィクスの進歩に伴い、機械部品のような固く一様な物体だけでなく、柔らかく不規則な形状を持った物体を表現しようとする技術が進展を見せています。自然物の表面のような人間の手には負えないような微細な構造や、人体の内部や気体の流れのような本来見ることのできない物体や現象をコンピュータによって可視化する技術は、科学全般にとって興味ある問題であると言えるでしょう。グラフィクスと CAD 研究会では、昨年の「自然物のモデリングと表現技術」の集中研究集会での成果を元に、コンピュータビジュアライゼーションの最先端で活躍される6人の研究者の方の講演をまとめたセミナを企画いたしました。さまざまな形状・モデル・現象のグラフィクスによる可視化を考えるうえで、幅広い展望が得られるものと確信いたします。奮ってご参加ください。

日 時 1990年9月14日(金)
場 所 機械振興会館 地下2階ホール
申込締切 1990年8月31日(金)
参加費 会員 10,000 円, 非会員 15,000 円, 学生会員 5,000 円(資料のみ 3,000 円(送料込))
問合せ先 担当委員 松井 俊浩 電子技術総合研究所 自律システム研究室 Tel. 0298 (58) 5977
主査 中嶋 正之 東京工業大学工学部像情報工学研究施設 Tel. 045 (922) 1111 ext. 2081
申込み先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
(社)情報処理学会 セミナ係
Tel. 03 (505) 0505 FAX 03 (584) 7925

～ プ ロ グ ラ ム ～

- | | |
|---------------------------------------------|----------------|
| 1. ビジュアライゼーションの基礎技術と研究動向 (10:00~11:00) | 中嶋 正之 (東京工業大学) |
| 2. フラクタル・テクスチャマッピングを用いた自然物の表現 (11:00~12:00) | 宮田 一乗 (日本 IBM) |
| 3. 医療におけるビジュアライゼーション技術 (13:00~14:00) | 周藤 安造 (東芝) |
| 4. 服地、織物の質感表現 (14:00~15:00) | 今岡 春樹 (奈良女子大学) |
| 5. 流体力学における可視化 (15:15~16:15) | 大島 裕子 (リコー) |
| 6. 高速ビジュアライゼーションアーキテクチャ (16:15~17:15) | 大村 皓一 (大阪学院大学) |

「コンピュータビジュアルライゼーションの最新動向」セミナー
参加申込書

平成 年 月 日

標記講習会の参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 5,000 円

* 参加費には, 資料代が含まれています。

○資料のみ (3,000 円, 送料込) _____ 冊

○送金方法

- * _____ 円を a) 当日, 会場受付にて支払います。
b) _____ 月 _____ 日送金します。

* (b を選択したかたのみご記入ください)

b-1) 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
(社)情報処理学会 セミナ係 Tel. 03 (505) 0505)

b-2) 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 太陽神戸三井銀行東京
営業部 4298739

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

・送金先銀行名 _____ 銀行宛

・送金取扱銀行名 _____ 銀行 _____ 支店より

・送金人名義 _____ 様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は1枚1人としてください。(コピーで申し込むこと)

.....
(楷書でハッキリ記入してください)申込者
連絡先 〒 _____

所属名 _____

フリガナ
氏名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) Fax. _____

第2回「情報システムの計画と設計チュートリアル」開催について

情報システムの計画と設計については、その中核をなす分析・設計手法とともに、「まだまだ未知の領域が多い」「人に教えるほど成熟していない」というのが通念でありました。近年、個別の分析・設計技法の研究開発とともに、既存手法も含め、総合的なメソドロジーとして体系化・標準化・商品化する動きが見られ、この状況は大きく変化しつつあります。今回、情報システムの構築・研究に携わる方々を対象に、SIS, CASE 等の動向を踏まえつつ、現在用いられている計画・設計分野のメソドロジーとそこに用いられている分析・設計技法に関するチュートリアルを企画いたしました。この分野に関心を持つ方々、今後この分野を担ってゆく新進気鋭の方々多数の参加をお願いいたします。

日 時	平成2年9月18日(火) 10:00~17:45 (受付開始 9:40) 19日(水) 9:40~17:45 20日(木) 9:40~17:45
場 所	慶応大学日吉情報センター AV ホール (横浜市港区日吉 4-1-1)
参加費	正会員 4万円 (但し、情報システム研究会登録者は3万円) 非会員 5万円, 学生会員 6千円 (チュートリアルテキストのみ 6,000円 (送料込み))
懇親会	9月20日(木) 18:00より 講師との個別討論や参加者どうしの親睦の場です。奮ってご参加ください。
申込締切	平成2年8月27日(月) (定員50名になり次第締切らせていただきます)

プログラムの概要

1. 「情報システムの計画と設計」方法論の基礎
情報システムの計画・設計業務の概要, 構造化分析, データ主導型設計, ジャクソン法, オブジェクト指向など基礎的分析・設計技法の概説, CASE の現状と動向.
2. 「情報システムの計画と設計」方法論の実際
現在提供されているいくつかの方法論を題材に下記的话题を概説する.
経営戦略との融合, 方法論の体系, 構想の立案, 問題分析, 要求分析と仕様化, CASE の適用など.

プログラム

9月18日(火)	9月19日(水)	9月20日(木)
(10:00~10:10) ●開会の辞 伊吹 公夫(東京工科大) (10:10~11:10) ●情報システム構築に当たって 松谷 泰行(多摩大) (11:10~12:10) ●経営モデルと情報化戦略 浅輪 壽男(住友スリーエム)	(9:40~11:10) ●SSADM: 構造的システム分析・設計法 神沼 靖子(帝京技術科学大) (11:10~12:10) ●CASEの現状と導入方法 竹林 則彦(アーンストヤング) (コンサルティング)	(9:40~11:10) ●ジャクソンシステム開発法 長谷川邦夫(日本ユニシス) (11:10~12:10) ●CASE環境に含まれる新技術 竹下 亨(日本アイ・ビー・エム)
——(昼食 50分)——	——(昼食 50分)——	——(昼食 50分)——
(13:00~14:00) ●経営戦略とシステムの融合: METHODE/1 岡田 俊輔(アーサーアンダーセン) (14:00~15:00) ●経営戦略と情報技術: ユニシスの考え方 手島 歩三(日本ユニシス)	(13:00~14:00) ●SIS構築の方法論について: HIPLAN 水野 康彦(日立製作所) (14:00~15:00) ●業務部門主導型のシステム開発方法論: PRIDE 松平 和也(PRIDE)	(13:00~14:00) ●戦略的システム構想の構築: SSCM 高橋 生宗(東芝) (14:00~15:00) ●問題分析からシステム概要設計へ: PROMOTION/DP 小林 邦生(日本電気)
.....(休憩 15分).....(休憩 15分).....(休憩 15分).....
(15:15~17:45) ●データ主導型システム分析・設計手法 堀内 一(日立製作所)	(15:15~16:45) ●オブジェクト指向 遠山 元道(慶応大) 前田 和昭(中部大) (16:45~17:45) ●AI, ORを適用した問題解決指向型システム設計: SOLOMON 市川 照久(三菱電機)	(15:15~16:15) ●システム要求分析技法: C-NAP II 橋本 恵二(富士通) (16:15~17:15) ●これからのアプリケーション開発環境: AD/CYCLE 横田 隆夫 (日本アイ・ビー・エム) (17:15~17:45) ●システム設計者の学ぶもの 浦 昭二(慶応大)

注) プログラム・講師は変更になる場合があります。

第2回「情報システムの計画と設計チュートリアル」

参加申込書

平成 年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○でかこむ)

正会員, 賛助会員 40,000 円 非会員 50,000 円 学生 (大学院生) 6,000 円
情報システム研究会登録者 30,000 円

* 参加費には, テキスト代, 懇親会費が含まれています。

○テキストのみ (6,000 円, 送料込) _____冊

○送金方法

- * _____円を a) 当日, 会場受付にて支払います。
b) _____月 _____日送金します。

* (b を選択したかたのみご記入ください)

b-1) 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
(社)情報処理学会シンポジウム係 Tel. 03 (505) 0505)

b-2) 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店	1013945	富士銀行虎ノ門支店	993632
三菱銀行虎ノ門公務部	0000608	太陽神戸三井銀行東京 営業部	4298739
住友銀行東京公務部	10899	三和銀行東京公務部	21409
名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会			

- ・送金先銀行名 _____銀行宛
- ・送金取扱銀行名 _____銀行 _____支店より
- ・送金人名義 _____様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は1枚1人としてください。(コピーで申し込むこと)

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先

〒 _____

所属名 _____

フリガナ

氏名 _____

殿 _____

Tel. _____ (ex. _____) Fax. _____

「1991 情報学シンポジウム～知的情報の資源化とその高次処理をめざして～」

論 文 募 集

背 景 本シンポジウムは、科学における情報の円滑な流通と高度利用を促進するため、データ・情報・知識に関する基本的問題を論じる場として、1984年以来毎年開催されている。これまで、データ・情報・知識の獲得・蓄積・利用の問題について、自然科学から人文科学まで多様な専門分野から発表が行われている。

1991 年のテーマ 今回は、以下のテーマに重点をおいて2日間にわたるセッションを構成する予定である。

1. ハイパーメディア・ハイパーテキスト
 - a) ハイパーメディアのモデル・理論・技術
 - b) 高度利用者インタフェース・マルチメディアデータベースの構築
 - c) ハイパーテキストシステムの応用例
2. 全文データベース
 - a) マルチメディア全文データの入力・管理・利用
 - b) テキストデータベースのアクセス手法
3. バイオ・データベース
 - a) バイオ・データベースの構築と利用
 - b) 知識ベースおよびファジー理論のバイオ・データベースへの適用例

共同主催 (予定) 日本学会会議 情報学研究連絡委員会
 学術文献情報研究連絡委員会
 学術データ情報研究連絡委員会
 情報工学研究連絡委員会

情報処理学会, 人工知能学会, 日本医学会, 日本化学会, 日本数学会, 日本地理学会, 日本物理学会, 情報知識学会

後 援 (予定) 学術情報センター, 計測自動制御学会, 国際電信電話, 情報科学技術協会, 情報通信学会, 電子情報通信学会, 日本医療情報学会, 日本科学技術情報センター, 日本機械学会, 日本金属学会, 日本原子力学会, 日本材料科学会, 日本材料学会, 日本生化学学会, 日本電信電話, 日本動物学会, 日本農学会, 日本分子生物学会, 日本分析化学会, 日本薬学会, 化学情報協会

日 時 1991年1月8日(火)～9日(水) 9:30～17:00 (開催日が変更になりました)

場 所 日本学会会議講堂 (地下鉄千代田線, 乃木坂駅下車)

参加申込み 氏名, 連絡先, 資料必要の有無をはがきに記入し12月20日までに下記に申し込む。当日受付もあるが, 資料不足の際は事前登録者を優先する。

参加費 (資料代として) 共催学協会員 5,000円, 学生 1,500円, 一般 7,000円

論文申込方法 ワープロ使用でA4用紙4～10枚の論文と, 題目, 氏名, 連絡先, 職名を記入した別紙を添えて下記宛てに申し込む。

論文申込締切 1990年8月31日(金) 必着

採否通知 プログラム委員会で審査し, 採否は1990年10月1日までに通知する。

最終原稿締切 1990年11月30日(金) 必着

宛 先 情報処理学会 情報学シンポジウム係

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3F Tel. 03 (505) 0505

「コンピュータシステム」シンポジウム論文募集

—あたらしいオペレーティングシステム—

コンピュータシステムのハードウェア環境が急速に変化しています。特にマイクロプロセッサを用いた、分散、並列処理システムの発展は爆発的とも形容できるものです。これに対応するために、システム・ソフトウェアの分野では、研究プロジェクトを創始、運営することにより、新しいアイデアの提示、及び検証をさらに積極的に推進する必要があるように思われます。本シンポジウムは、分散・並列処理システムの開発プロジェクトを中心として、個々の技術的側面のみならず、企画等も含めて、総合的な観点からの発表、及び、議論の場を提供するものです。

標記のシンポジウムは、15件の一般発表、招待講演、及び、パネル・ディスカッションから構成される予定です。そこで下記の要領で論文を募集いたします。

内 容 分散・並列システム用オペレーティングシステムに関連して、下記のテーマ

①新しいシステムの提案

(負荷調整機構、プロセス移動機構、遠隔手続き呼出し機構など)

②試作システムの評価結果

③開発経験からの総合的知見

④分散処理に関する方式提案および解析

⑤並列処理に関する方式提案および解析

(軽量プロセス実現機構など)

日 時 平成3年3月26日(水)～3月27日(木)

場 所 東京大学山上会館

発表申込先 平成2年11月1日までに発表原稿を下記にお送りください。採否は12月8日までに通知いたします。採録決定者の論文提出期限は平成3年2月6日といたします。

情報処理学会「コンピュータシステムシンポジウム」係

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

平成2年度の会費、論文誌・欧文誌購読費の 納入について (お願い)

本年度の会費および購読費未納の方に、6月中旬に郵便振替用紙によって、再請求のお願いをいたしました。

ご承知のとおり、会費と購読費は前納を原則としており、大部分の方はすでに納入済みです。未納の方は早急にご納入くださいますよう、よろしく申し上げます。

なお、7月末日までに納入いただけない場合には、9月から学会誌、購読誌の送付をストップいたしますので、ご留意ください。また、ストップしました学会誌、購読誌は、その後会費、購読費を納入されても配付を受けられないこともありますので、ご承知ください。

(自動振替納入利用の会員へ)

去る3月27日に振替未済の方は7月27日に振替えますので、その前に預金残高を確認いただき、振替額不足にならぬようご留意ください。振替金額は3月中旬の請求額どおりですが、あらためてご通知いたしましたのでご確認ください。また、振替えされた場合には預金通帳の摘要欄に「ダイヤモンドファクター」または「コウザフリカエ」と印字されます。

ISSAC-90 (国際数式記号処理学会)

1990 International Symposium on Symbolic and Algebraic Computation

上記国際会議が AAEECC-8 と共同で次の要領で開催されます。多くの研究者、学生の方々のご参加を期待します。

開催日 平成2年8月20日(月)～24日(金)

開催場所 日本大学理工学部(東京都千代田区神田駿河台)

論文発表内容 論文発表の行われる主な分野は以下のとおり

記号計算, 記号処理システム, 自動定理証明, 代数的算法, 記号・数値計算, 並列的記号計算, 記号計算の諸分野への応用
など(ポスターセッションを含む)。

チュートリアル 上の発表講演以外に次のチュートリアル講演が行われます。

①初心者のための代数計算 渡辺隼郎

②The complexity of computing in permutation group Eugene Luks

共催 ACM-SIGSAM, 情報処理学会, ソフトウェア科学会

登録参加費

	6月30日まで	6月30日以降
ACM, IPSJ, JSSST SAME 会員	22,000 円	28,000 円
その他	25,000 円	30,000 円
学生	8,000 円	10,000 円
同伴者	10,000 円/1人	
チュートリアル	登録者 10,000 円 非登録者 20,000 円	

なお、各社による展示も同時開催されます(見学無料)

参加申込書の送付その他は下記へご連絡ください。

101 東京都千代田区駿河台神田 3-2 山崎ビル, サイエнтиスト社内
IJC-2 事務局 Tel. 03 (258) 8992 FAX 03 (255) 6847

平成3年度研究会等の新設提案について

平成3年度に研究会・調査委員会の新設を希望する会員は、9月17日(月)までに所定の書式により、研究会(調査委員会)新設提案書を調査研究運営委員長に提出してください。書式その他詳細は学会事務局研究会係までお問合せください。

SIGAL International Symposium on Algorithms アルゴリズムに関する SIGAL 国際シンポジウム

情報処理学会アルゴリズム研究会では、下記のようにアルゴリズムに関する国際シンポジウムを開催致します。海外よりの招待講演 5 件を含め、49 件の国際的にも第一線級の論文が発表されますので、ふるってご参加頂きますようご案内致します。

期 日 1990 年 8 月 16 日 (木)~18 日 (土)
場 所 CSK 情報処理教育センター (東京都多摩市, 京王・小田急永山駅下車徒歩 3 分)
主 催 情報処理学会アルゴリズム研究会
後 援 電子情報通信学会コンピュータシミュレーション研究会
参加費 25,000 円 (会議録費を含む; 詳細は下記資料請求先まで)
資料請求先 上智大学理工学部浅野孝夫 (〒102 東京都千代田区紀尾井町 7-1)

プログラム

8 月 16 日 (木)

Session I-1: Invited Talk (9:30-10:30)

Recent Progress in String Algorithms
Z. Galil (Columbia Univ. and Tel Aviv Univ.)

Session I-2: Invited Talk (10:40-11:40)

Selection Networks
N. Pippenger (Univ. of British Columbia)

Session A-1 (1:10-2:10)

Computing Edge-Connectivity in Multiple and Capacitated Graphs
H. Nagamochi and T. Ibaraki (Kyoto Univ.)
Efficient Sequential and Parallel Algorithms for Planar Minimum Cost Flow
H. Imai (Univ. of Tokyo) and K. Iwano (IBM Res., Tokyo Research Lab.)

Session B-1 (1:10-2:10)

Structural Analyses on the Complexity of Inverting Functions
O. Watanabe (Tokyo Inst. of Technology) and S. Toda (Univ. of Electro-Communications)
Oracles versus Proof Techniques that Do Not Relativize†
E. Allender (Rutgers Univ.)

Session A-2 (2:30-3:30)

20-Relative Neighborhood Graphs Are Hamiltonian‡
M. S. Chang (National Chung Cheng Univ.), C. Y. Tang and R. C. T. Lee (National Tsing Hua Univ.)
The K-Gabriel Graphs and Their Applications
T.-H. Su and R.-C. Chang (National Chiao Tung Univ.)

Session B-2 (2:30-3:30)

Parallel Algorithms for Generating Subsets and Set Partitions
B. Djokić (Univ. of Miami), M. Miyakawa, S. Sekiguchi (Electrotechnical Lab.), I. Semba (Ibaraki Univ.) and I. Stojmenović (Univ. of Ottawa)
Parallel Algorithms for Linked List and Beyond‡
Y. Han (Univ. of Kentucky)

Session A-3 (3:50-4:50)

Local Tournaments and Proper Circular Arc Graphs‡
P. Hell (Simon Fraser Univ.), J. Bang-Jensen (Univ. of Copenhagen) and J. Huang (Simon Fraser Univ.)
Fast Algorithms for the Dominating Set Problem on Permutation Graphs
K.-H. Tsai and W.-L. Hsu (Northwestern Univ. and Academia Sinica)

Session B-3 (3:50-4:50)

Two Probabilistic Results on Merging
W. F. de la Vega (Univ. Paris-Sud), S. Kannan (Univ. of California, Berkeley) and M. Santha (Univ. Paris-Sud)
Randomized Broadcast in Networks
U. Feige, D. Peleg (Weizmann Inst. of Science), P. Raghavan (IBM T. J. Watson Res. Ctr.) and E. Upfal (IBM Almaden Res. Ctr.)

8 月 17 日 (金)

Session I-3: Invited Talk (9:30-10:30)

On the Construction of Abstract Voronoi Diagrams, II
R. Klein (Univ.-GHS-Essen), K. Mehlhorn and S. Meiser (Univ. des Saarlandes)

Session I-4: Invited Talk (10:40-11:40)

Searching in Higher Dimension
B. Chazelle (Princeton Univ.)

Session A-4 (1:10-2:10)

Finding Extrema with Unary Predicates‡
D. Kirkpatrick and F. Gao (Univ. of British Columbia)
Implicitly Searching Convolutions and Computing Depth of Collision‡
D. Dobkin (Princeton Univ.), J. Hershberger (DEC SRC), D. Kirkpatrick (Univ. of British Columbia) and S. Suri (Bellcore)

Session B-4 (1:10-2:10)

Characterization for a Family of Infinitely Many Irreducible Equally Spaced Polynomials
T. Itoh (Tokyo Inst. of Technology)
Distributed Algorithms for Deciphering
M. Cosnard and J.-L. Philippe (Ecole Normale Supérieure de Lyon)

Session A-5 (2:30–3:30)

An Efficient Algorithm for Optimal Loop Parallelization
K. Iwano and S. Yeh (IBM Res., Tokyo Research Lab.)

Another View on the SSS* Algorithm
W. Pijls and A. de Bruin (Erasmus Univ. Rotterdam)

Session B-5 (2:30–3:30)

Algorithms from Complexity Theory: Polynomial-Time Operations for Complex Sets†

L. A. Hemachandra (Univ. of Rochester)

Complexity Cores and Hard Problem Instances†

U. Schöning (Univ. Ulm)

Session A-6 (3:50–5:20)

Spatial Point Location and Its Applications

X.-H. Tan, T. Hirata and Y. Inagaki (Nagoya Univ.)

Sublinear Merging and Natural Merge Sort

S. Carlsson, C. Levcopoulos and O. Petersson (Lund Univ.)

Constructing Strongly Convex Approximate Hulls with Inaccurate Primitives

L. Guibas (Stanford Univ. and DEC SRC), D. Salesin (Stanford Univ.) and J. Stolfi (DEC SRC)

Session B-6 (3:50–5:20)

Computing Puiseux-Series Solutions to Determinantal Equations via Combinatorial Relaxation

K. Murota (Univ. of Tokyo)

Complexity of Probabilistic versus Deterministic Automata†

R. Freivalds (Latvian State Univ.)

A Tight Lower Bound on the Size of Planar Permutation Networks†

M. Klawe (Univ. of British Columbia) and

T. Leighton (MIT)

8月18日(土)

Session I-5: Invited Talk (9:30–10:30)

Simultaneous Solution of Families of Problems
R. Hassin (Tel Aviv Univ.)

Session A-7 (10:40–11:40)

Algorithms for Projecting Points to Give the Most Uniform Distribution with Applications to Hashing

Te. Asano (Osaka Electro-Communication Univ.) and T. Tokuyama (IBM Res., Tokyo Research Lab.)

Topological Sweeping in Three Dimensions

E. G. Anagnostou (Univ. of Toronto), L. J. Guibas (MIT and DEC SRC) and V. G. Polimenis (Univ. of California, Berkeley)

Session B-7 (10:40–11:40)

Finding Least-Weight Subsequences with Fewer Processors

K.-F. Chan and T.-W. Lam (Univ. of Hong Kong)

Derandomization by Exploiting Redundancy and Mutual Independence

Y. Han (Univ. of Kentucky) and Y. Igarashi (Gunma Univ.)

Session A-8 (1:10–2:10)

Planar Separators and the Euclidean Norm

H. Gazit (Duke Univ.) and G. L. Miller (Carnegie Mellon Univ. and Univ. of Southern California)

On the Complexity of Isometric Embedding in the Hypercube

D. Avis (McGill Univ.)

Session B-8 (1:10–2:10)

Distributed Function Evaluation in the Presence of Transmission Faults

N. Santoro (Carleton Univ. and Univ. di Bari) and P. Widmayer (Freiburg Univ.)

Optimal Linear Broadcast

S. Bitan and S. Zaks (Technion)

Session A-9 (2:30–3:30)

Graph Augmentation Problems for a Specified Set of Vertices

T. Watanabe, Y. Higashi and A. Nakamura (Hiroshima Univ.)

A Heuristic Algorithm for the k -Center Problem with Vertex Weight

Q. Wang and K. H. Cheng (Univ. of Houston)

Session B-9 (2:30–3:30)

Parallel Convexity Algorithms for Digitized Images on a Linear Array of Processors

H. M. Alnuweiri (King Fahd Univ. of Petroleum and Minerals) and V. K. Prasanna Kumar (Univ. of Southern California)

Parallel Algorithms for Labeling Image Components

W.-J. Hsu and X. Lin (Michigan State Univ.)

Session A-10 (3:50–5:20)

A Hyperplane Incidence Problem with Applications to Counting Distances

H. Edelsbrunner (Univ. of Illinois, Urbana-Champaign) and M. Sharir (New York Univ. and Tel Aviv Univ.)

Splitting a Configuration in a Simplex

K. Numata (Univ. of Electro-Communications) and T. Tokuyama (IBM Res., Tokyo Research Lab.)

Weaving Patterns of Lines and Line Segments in Space

J. Pach (New York Univ. and Hungary Academy of Sciences), R. Pollack (New York Univ.) and E. Welzl (Freie Univ. Berlin)

Session B-10 (3:50–5:20)

Efficient Parallel Algorithms for Path Problems in Planar Directed Graphs

A. Lingas (Lund Univ.)

Parallel Algorithms for Finding Steiner Forests in Planar Graphs

H. Suzuki, C. Yamahaka and T. Nishizeki (Tohoku Univ.)

Optimally Managing the History of an Evolving Forest

V. J. Tsotras (Columbia Univ.), B. Gopinath (Rutgers Univ.) and G. W. Hart (Columbia Univ.)

† invited papers

平成2年電気・情報関連学会連合大会の開催案内

標記大会は、昨年と同様にシンポジウム講演、パネル討論を下記により開催致します。多数の会員が参加され、活発な質疑討論の展開により会員各位の得るところの多い大会となるよう期待致します。

会 期：平成2年8月28日（火）～30日（木）

会 場：東京理科大学工学部（東京都新宿区神楽坂1-3）

特別講演：「常温核融合研究の現状」 29日（水）午後1時30分～3時10分

1. 物理計測の立場から……………池上 英雄氏（名 大）
2. 電気化学の立場から……………太田健一郎氏（横浜国大）

日本学術会議：「21世紀の通信網と光エレクトロニクス技術への期待」

シンポジウム 29日（水）午後3時20分～5時20分

シンポジウム構成 司会 城水元次郎氏（富士通）

1. 総論 秋山 稔氏（東大）、2. 通信網の発展 五嶋一彦氏（NTT）、3. 光伝送の将来を支える光エレクトロニクス 辻井重男氏（東工大）、4. 光機能デバイスへの期待 阪口光人氏（日電）、5. イメージディスプレイの開発 石井三男氏（シャープ）

講演日程：大会日程表をご参照下さい。なお、講演は午前9時、午後は1時30分より開始。

講演論文集：下記をご参照下さい。

大会参加費：会員：1,000円、学生（大学院修士課程まで）：500円、会員外1,700円

聴講される場合は、必ず参加費を納入され、参加章を付けてご入場願います。参加は当日も受けませんが、下記論文集と同時にご予約頂きますと大会前に論文集と一緒に送付致します。

懇親会：29日（水）午後5時30分より 会場：飯田橋会館（千代田区富士見町2-10-3）

会 費：一般 4,000円、学生 2,000円

論文集予約募集

講演論文集：B5判オフセット印刷、8月10日出版予定、講演内容は下記をご参照下さい。

予約申込締切：平成2年8月2日（木）厳守（電話予約は不可。又、この期日以後に注文書の到着したものは予約扱いとなりません）。

申 込 先：〒105 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館内、電子情報通信学会 電気・情報関連学会連合大会論文集予約係 ☎（03）433-6691

申 込 方 法：送金方法によって若干異なります。

(1)現金書留で送金の場合

・予約申込書を同封してお申込み下さい。

(2)郵便振替で送金の場合

・局所定の用紙を利用、東京2-35300、電子情報通信学会宛

・振替用紙の通信欄が申込書になります。分冊の区別と部数をお忘れなくご記入下さい。

※申込書を別に送付しないで下さい。（重複発生の原因になります。）

(3)銀行振込で送金の場合

・振込口座：三菱銀行虎ノ門公務部（普0000548）、住友銀行（当263046）、富士銀行（当6251）、第一勧業銀行（当105-595）の虎ノ門支店

・予約申込書を連合大会論文集予約係宛郵送して下さい。

・ご送金の際、送金内容（申込者氏名、金額、振込人名義、振込先銀行名、振込月日）を会計課宛郵送して下さい。

注 意 事 項：(1)論文集代、大会参加費はやむをえない場合を除き、必ず代金を添えてお申込み下さい。

(2)学校・官庁等で指定の請求書等を必要とする方はお申込みの際、関係書類をお送り下さい。

(3)大会参加者は、全員「参加章」を必要とします。

(4)懇親会参加ご希望の方は、必ず代金を添えてお申込み下さい。

**平成2年電気・情報関連学会
連合大会論文集**

各分冊 B5判オフセット印刷

※論文集の定価(当日価)は消費税込の価格です。

分冊	課題 (S: シンポジウム, P: パネル討論)	講演件数	予約価 (当日価)
1	S.1 コージェネレーション技術の現状と展望	6	3,400円 (4,200円)
	S.2 太陽光発電の開発動向	6	
	S.3 熱電気相互変換デバイス技術の進展	6	
	S.4 インテリジェントビルの自動化と電磁ノイズ	5	
	S.5 ガス遮断器の最近の技術動向	6	
	S.6 リニアモータ解析における動向と展望	7	
	S.7 システム・制御理論からみた生体系	7	
	計	43	
2	S.8 気中放電データベースの構築と応用—放電ハンドブックをコンピュータに入れるために—	5	3,400円 (4,200円)
	S.9 鉄道における照明と案内	6	
	S.10 大都市の通勤を楽に、速くするには—都市鉄道の容量・速度決定要因とその改善—	7	
	S.11 次世代を指向した高性能軟磁性材料とその応用	7	
	S.12 エンジニアリング・プラスチックの電気絶縁分野への応用	7	
	S.13 最近の演出照明の動向—ライトアップ技術—	5	
	S.14 光化学産業用光源の現状と将来展望	6	
	計	43	
3	S.15 最近の光集積デバイス	5	3,500円 (4,300円)
	S.16 量子効果光デバイスの現状と課題	7	
	S.17 極限光計測技術	7	
	S.18 快適性の科学	8	
	S.19 最近のテレビジョン放送伝送技術	7	
	S.20 TVカメラの現状と動向	5	
	S.21 90年代先端ニューメディア技術の展望	5	
	計	44	
4	S.22 携帯電話小形化回路技術の現状と動向	8	3,800円 (4,700円)
	S.23 移動体通信応用システムと測位システムにおける最近の動向	7	
	S.24 電源分散化の動向と問題点	7	
	S.25 バイオセンサの現状と将来	6	
	S.26 超伝導エレクトロニクスの新しい展開	8	
	S.27 VLSIのテスト容易化設計技術・フォールトトレラント技術	6	
	P.1 Fiber-to-the-Home: その展開とサービスの展望	7	
	計	49	
5	S.28 人間および人工知能における概念形成と知識獲得	7	3,400円 (4,200円)
	S.29 フォールトトレラントシステム	8	
	S.30 「ハイパーメディア」「ハイパーコンピュータ」の動向	6	
	S.31 パターン情報処理における学習と知識獲得	5	
	S.32 分散協調システム＝グループウェア	6	
	P.2 インテリジェントオフィスの展望と課題—試みと運用の体験から—	7	
	計	43	
合本	上記分冊一揃 (カバー付)	222	17,500円 (21,600円)

平成2年電気・情報関連学会連合大会論文集価格および内容細目

下記分冊一揃(カバー付) 予約価 17,500円, (当日価 21,600円)

▼〔第1分冊〕予約価 3,400円, (当日価 4,200円)

(敬称略)

1. コージェネレーション技術の現状と展望

〔座長 早川一也(建築設備総合協会)〕

本シンポジウムは1987年4月~1990年3月の3年間に活動を行ったコージェネレーション技術調査専門委員会のメンバーにより開催するものであるが、この期間における民生用システムの実績数は300例に達する。これを支えたシステムならびに技術、建築との関係について総合的に紹介、討論する。

1-1 コージェネレーションシステムの普及と展望 早川一也 1-2 システムの信頼性 塩谷 学 1-3 燃料電池と内燃機関 大野吉弘 1-4-1 建築への適用に求められる機能経済性(I) 前田秀則 1-4-2 建築への適用に求められる機能経済性(II) 中根 滋 1-5 法制面について 岩井博行

2. 太陽光発電の開発動向

〔座長 山口真史(NTT) 伊藤晴夫(日立)〕

最近、地球環境問題と関連して太陽光発電が注目されています。本シンポジウムでは、まず最近の太陽電池産業の現状を眺めた後、結晶Si系、アモルファスSi系、CuInSe₂薄膜太陽電池および宇宙用太陽電池の開発動向を紹介いたします。さらに、六甲アイランドでの200kW住宅用太陽光発電システムを紹介いたします。

2-1 太陽電池産業の現状 桑野幸徳 2-2 結晶系Si太陽電池 蕨迫光紀 2-3 大面積アモルファス太陽電池 市川幸美 2-4 CuInSe₂薄膜太陽電池 岡岡昭夫 2-5 宇宙用太陽電池 山口真史 2-6 系統連系制御技術と六甲アイランド実験システム 滝川 清

3. 熱電気相互変換デバイス技術の進展

〔座長 梶川武信(電総研)〕

ペルチェ効果を用いた電子冷却は、半導体レーザー等の電子素子の冷却に威力を発揮し始めている。また各種熱源に柔軟に対応出来る熱発電が排熱利用等で見直されてきている。素子材料の高性能化に対し種々のアプローチが見られる。それらの成果をまとめ、最近の進展を総括し、将来を展望する。

3-1 熱電材料・素子化技術の最近の進歩 3-1-1 ビスマス・テルル系結体の高性能化 西田勲夫 3-1-2 直接固相反応法による素子製造技術 平山昭夫 3-1-3 プラズマ・イオンプロセスによる熱発電用新材料 松原覚衛 3-1-4 多孔質SiC熱電素子 河本邦仁 3-2 電子冷却システムの新しい応用 上村欣一 3-3 温度差電池(AMTEC)の最近の動向 増田俊久

4. インテリジェントビルの自動化と電磁ノイズ対策

〔座長 折原明男(日建設計)〕

最近の異常気象と自動化された電子機器類の普及に伴って、雷放電を含めた電磁ノイズによる障害が発生している。特に大形化したインテリジェントビルでは障害発生の影響力が大きい。従って、自動化システムに対する電磁ノイズの障害に対する対策を取りまとめ学ぶことが必要な時期と考える。

4-1 インテリジェントビル設備運用の自動化技術 豊田武二 4-2 インテリジェントビルにおける受配電設備の信頼性技術 中島廣一 4-3 インテリジェントビルにおける電力系統への電磁ノイズ障害と対策 下村哲朗 4-4 計装・制御配線への電磁ノイズ障害と対策 村山芳昭 4-5 通信・情報機器における電磁ノイズ障害と対策 徳田正満

5. ガス遮断器の最近の技術動向

〔座長 中西邦雄(電機大)〕

昨今都市の過密化が進み、大容量送電と電力の高品質化が要求されている。電力系統を保護するガス遮断器はこれに応じてコンパクト化・大容量化と高信頼性化が進んだ。これを可能とした最近の技術的進歩を種々の方面の専門的立場から解説し、将来の方向性につき討論する。

5-1 系統からの遮断器への期待 花村 信 三瓶雅俊 5-2 遮断方式の技術動向 大下陽一 金万直弘 5-3 操作装置の技術動向 吉積敏昭 森下恵二 5-4 遮断器の試験技術の動向 葛間泰邦 近藤貞次 杉山修一 5-5 遮断器の診断技術の動向 武居秀実 小林重之 5-6 アーク遮断現象研究の動向 鬼頭幸生 池田久利

6. リニアモータ解析における動向と展望

〔座長 正田英介(東大)〕

リニアモータは、高度化技術として産業界の各分野においてその応用が急速に拡大する新しい動きがあり、リニアモータの実用的な電磁界数値解析技術が進展している。ここでは、リニアモータの解析技術の最新状況と今後の展望や課題を中心に専門家の講演と議論を進める。

6-1 リニアモータ解析技術の展望 正田英介 6-2 片側式リニア誘導モータの境界要素法解析と展望 野中作太郎 小川幸吉 6-3 リニア誘導モータの動画による解析と動向 伊藤元哉 6-4 短二次形リニア誘導モータの

有限/境界要素法解析 小貫 天 6-5 リニア同期モータの数値解析と展望 吉田欣二郎 6-6 リニアリラクタンスモータの磁気回路 武田洋次 平紗多賀男 6-7 リニアパルスモータの有限要素法解析 成田 隆

7. システム・制御理論からみた生体系 〔座長 南谷晴之(慶応大) 佐藤俊輔(阪大)〕

サイバネティクスが提唱されてから40年以上の間に生体系に関する知識は膨大なものになった。サイバネティクスの基礎はシステム・制御理論であり、これらがサイバネティクスの発展にどのように寄与したか、また今後どんな貢献をすると期待されるか、具体的な生体システムの解析例をもとに個別的また総合的な立場から討論する。

- 7-1 総論：生体情報処理と工学技術 齋藤正男 7-2 呼吸・循環系のシステム論的アプローチ 河原剛一
7-3 生体運動系におけるフィードバックとフィードフォワード 伊藤宏司 7-4 聴覚・音声システムとそのモデル化 寛 一彦 7-5 網膜神経回路の信号処理構造；膜，ニューロンからネットワークへ 八木哲也 安井湘三
舟橋康行 7-6 情報システム論的思考による運動中枢の機能表現 田口英郎 7-7 視覚中枢の計算機能 山根茂

▼〔第2分冊〕予約価 3,400円 (当日価 4,200円)

8. 気中放電データベースの構築と応用 〔座長 堀井憲爾(名大)〕

空気、SF₆ガス等の気中放電に関するデータおよび知識に関するデータベースの構築と応用例について、その現状を紹介する。対象としては、放電基礎課程、大気中ならびにSF₆ガス中の破壊電圧、絶縁技術相談エキスパートシステムを取り上げる。

- 8-1 総論 大島 巖 8-2 気中放電基礎課程のデータベース 林 真 8-3 大気中放電のデータベース
高野哲美 8-4 SF₆ガス中放電のデータベース 仲西幸一郎 8-5 絶縁技術相談エキスパートシステム 堤泰行

9. 鉄道における照明と案内 〔座長 寺井孝之(新陽社)〕

駅ターミナルや車両の照明はアメニティの追求、コンセプトの具現のため大きく変化してきている。また総合交通体系の中心となる駅ターミナルの情報案内においても、社会活動に寄与する多くの試みが行われている。

ここでは、鉄道車両の情報活用の動向を含め、照明と案内の現状と将来について紹介する。

- 9-1 鉄道照明の現状と将来 小原清成 9-2 駅の旅客情報システム 木村幸男 9-3 鉄道車両における情報化の動向 藤原道雄 9-4 駅照明の新しい試み 小林輝雄 9-5 新宿駅サイン計画 横田保生 9-6 駅における券売機等のマンマシンの現状と将来動向 村戸健一

10. 大都市の通勤を楽に、速くするには一都市鉄道の容量・速度決定要因とその改善一

〔座長 曾根 悟(東大)〕

混雑して遅い通勤電車をもっと多く、速く走らせるための技術開発が進みつつある。信号システムの改良(先行列車に接近した際のブレーキ無駄時間を減らす一段ブレーキ化)、列車ダイヤの工夫(駅通過列車の有効な活用など)、新たな高密度運転技術の萌芽など、21世紀に向けての通勤鉄道を展望する。

- 10-1 大都市通勤輸送改善の可能性 水間 毅 10-2 信号の改善で運転間隔を縮めるには 板倉 栄治 10-3 所要時間を短くするためには 大石 勝 10-4 ダイヤの工夫で増発も、スピードアップも 阿久澤 充
10-5-1 高密度運転の技術(1)―実在の諸例の紹介― 平尾祐司 10-5-2 高密度運転の技術(2)―開発中の次世代技術― 長谷川 豊 10-6 現実的な高速・高密度化へのアプローチ 曾根 悟

11. 次世代を指向した高性能軟磁性材料とその応用 〔座長 荒井賢一(東北大)〕

近年新たな軟磁性材料として非晶質材料、極微結晶材料、極薄高配向け素鋼帯、高飽和磁化薄膜等が登場し、注目を集めている。またこれらを用いた電子機器の研究開発も活発に行われている。本シンポジウムは、これら次世代の新材料とその応用について討論・検討を行うことを目的とする。

- 11-1 非晶質・微結晶磁性材料 岡崎靖雄 11-2 結晶質磁性材料 石山和志 11-3 軟磁性薄膜材料 島田寛
11-4 高飽和磁化膜材料 小野堅一 11-5 高周波機器への応用 猪俣浩一郎 11-6 磁気センサへの応用 毛利佳年雄
11-7 マイクロ磁気デバイスへの応用 辻本浩章

12. エンジニアリング・プラスチックの電気絶縁分野への応用 〔座長 水谷照吉(名大)〕

電気・電子機器やケーブル等の高性能化に伴い、電気絶縁の分野でも新しい材料の開発および適用が強く望まれている。ここでは、新素材として注目されているエンジニアリング・プラスチックに着目し、その研究開発動向および電気絶縁分野への応用の現状と課題について討論する。

- 12-1 エンジニアリング・プラスチックの開発動向 森 弘昭 12-2 液晶ポリマーの特性と応用 矢崎文彦
12-3 ポリイミド蒸着重合膜の作成と応用 匹田政幸 12-4 プリント配線板用銅張積層板の技術動向 塚西憲次
12-5 エンジニアリング・プラスチックのケーブル絶縁への応用 会田二三夫 開出 保 12-6 エンジニアリ
ング・プラスチックの機器絶縁への応用 後藤一敏 時光富士雄 12-7 エンジニアリング・プラスチックの
電気・電子部品への応用 馬場文明

13. 最近の演出照明の動向—ライトアップ技術— [座長 野口 透 (摂南大)]

最近、博覧会等の屋外における行事や公共機関を含めた屋内の演出照明が盛んに行われている。大出力光源、可変色器具などの開発がすすみ色覚に訴える文化の表現として照明の分野が占めるものが多くなった。このライトアップ技術の事柄を整理し、学ぶことが必要な時期と考える。

- 13-1 演出照明の概念 内原智史 13-2 演出照明の手法 丸山秀幸 13-3 演出照明の光源と器具 白井 進
13-4 演出照明のデザイン 近田玲子 13-5 演出照明の電力 綿貫重友

14. 光化学産業用光源の現状と将来展望 [座長 平本立躬 (ウシオ電機)]

光化学産業用光源としては主としてUV領域のランプが用いられている。ここでは国内外の開発の動向、半導体製造分野、印刷・製版・塗装分野、医療・美容分野、耐候性試験分野、殺菌・滅菌分野で使用されている光源の現状と、課題、将来展望についてシンポジウムの形式で多面的に討論する。

- 14-1 総論—国内外の開発の動向— 平本立躬 14-2 半導体製造光プロセス用放射源 木下昭一 14-3 印
刷、製版、塗装に使用される光源 伊藤孝志 14-4 生体・生物(医療・美容)に用いられる放射源 河本康太郎
14-5 有機材料の耐光性耐候性試験装置およびその光源 峰松陽一 14-6 殺菌・滅菌に用いられる放射源 佐
藤幸広

▼[第3分冊]予約価 3,500円 (当日価 4,300円)

15. 最近の光集積デバイス [座長 梅野正義 (名工大)]

進展の著しい半導体レーザの高速化等の高性能化を論じると共に、光デバイスのモノリシック集積化やハイブリッド集積化、OEIC化、光集積デバイス用材料とその結晶成長技術、Si上へのGaAsへのヘテロ接合技術やSi上レーザ等、最近の光集積デバイスの現状と将来への展望について述べる。

- 15-1 半導体レーザの高性能化 植松 豊 15-2 光変調・受光素子の高性能化 脇田紘一 15-3 ハイブリッ
ド集積化光デバイス 滝沢国治 15-4 モノリシック集積化光デバイス 鈴木 明 15-5 光集積デバイス用Si
上GaAs結晶とSi上レーザ 神保孝志

16. 量子効果光デバイスの現状と課題 [座長 堺 和夫 (KDD) 三上 修 (NTT)]

量子井戸構造・歪超格子構造をもった半導体光デバイスは、今までの構造では、達し得ない性能を示すことで注目を集め、精力的に研究が進められている。本シンポジウムにおいては、第一線の研究者によって、現状の把握と課題を明確にするため、討論していただき、今後の研究指針を探る。

- 16-1 量子井戸・歪超格子構造の理論解析 末宗幾夫 16-2 量子井戸・歪超格子構造結晶成長 岩村英俊
16-3 量子井戸構造結晶の評価 菅原 充 16-4 量子井戸型レーザダイオード 北村光弘 16-5 歪超格子型
レーザダイオード 松島裕一 16-6 量子井戸型半導体光変調器 佐野博久 16-7 超格子型受光素子 香川俊
明

17. 極限光計測技術 [座長 野田寿一 (NTT)]

各種技術の高度化に伴い、極限的計測技術の開発が要望されている。ここでは代表的な産業分野における光を用いた極限的計測技術について、現状技術の動向ならびに将来展望を概説する。

- 17-1 光計測における極限技術動向 谷田貝豊彦 17-2 極微弱光計測技術 宮木末雄 17-3 光による遺伝子
検出 民谷栄一 17-4 極微粒子計測技術 高見勝己 17-5 光ディスク位置決め技術 後藤顕也 17-6 レ
ーザ核融合におけるビーム制御技術 実野孝久 17-7 衛星姿勢センシング技術 新田晃道

18. 快適性の科学 [座長 神作 博 (中京大)]

人間とそれを取り巻く環境に関する研究が進歩し、これまで複雑な問題として議論されなかった“快適性”が最近ようやく検討されるようになった。快適性とは何か。それを評価する手法はどのようなものか。これらを視覚、聴覚、温熱等の種々の分野から専門的に考察し、快適性を総合的に議論する。

- 18-1 総論 永村寧一 18-2 情緒工学 長町三生 18-3 視環境の快適性 宮田紀元 18-4 ワークステー
ションの快適性 野呂影勇 18-5 音響と照明 安藤四一 18-6 温熱環境の快適性 三平和雄 18-7 感性

工学 柳島孝幸 18-8 脳波と1/fゆらぎ 吉田倫幸

19. 最近のテレビジョン放送伝送技術

〔座長 羽鳥光俊（東大）〕

近年, EDTV, HDTV等, より迫力のある, 高精細, 高画質テレビジョン放送技術が開発されつつある。また, 現行方式についても多種多様化に対応した高能率伝送技術の開発も進んでいる。このようなテレビジョン放送の大きな変革時期を迎え, これらの技術について解説し, 討論する。

- 19-1 現行テレビ信号のデジタル伝送技術 村上仁己 19-2-1 次世代EDTVの信号伝送技術—高画質化, 高音質化を中心に— 吹抜敬彦 19-2-2 次世代EDTVの信号伝送技術—ワイドアスペクト化を中心に— 阿部能夫
19-3 放送設備および番組制作設備から見た次世代EDTV 高橋秋廣 19-4 MUSEファミリー伝送技術 (仮)
田中 豊 19-5 HDTVのアナログ伝送技術 大塚吉道 19-6 HDTVのデジタル伝送技術 沢田克敏

20. TVカメラの現状と動向

〔座長 安藤隆男（静岡大）〕

TVカメラは, 固体撮像素子の出現により民生用途に広がり, 更にHDTVや超高速撮像カメラ等の応用にも広がりを見せてきた。一方, 従来の撮像管カメラも高性能化してきた。今回のテーマでは上記の現状を踏えてTVカメラシステムの現在の課題と将来の動向について議論する。

- 20-1 民生用ビデオカメラの現状と動向 佐々木高行 20-2 電子スチルカメラの現状と将来 佐々木 実
20-3 放送用テレビカメラ 望月 徹 20-4 高解像度テレビカメラ 棚田 詢 20-5 超高感度テレビカメラ
鈴木英樹

21. 90年代先端ニューメディア技術の展望

〔座長 堀内和夫（早大）〕

我国の画像・通信技術の進歩は社会や産業ばかりでなく国際的にも大きなインパクトを及ぼしている。21世紀を10年後に控えたこの時期に, ニューメディアの夢と, これを取り巻く先端技術の動きを第一線専門家によって展望する。

- 21-1 放送のニューメディア 杉本昌徳 21-2 通信のニューメディア 釜江尚彦 21-3 ニューメディア時代のディスプレイ 内池平樹 21-4 ニューメディア時代の情報処理 柏木 寛 21-5 次世代のニューメディア映像技術 元木紀雄

▼〔第4分冊〕予約価 3,800円, (当日価 4,700円)

22. 携帯電話小形化回路技術の現状と動向

〔座長 米山 務（東北大）〕

携帯電話を始めとする移動通信の発展が著しい。これは近年の無線機超小形化のインパクトによるところが大きい。技術的には高周波回路部品を始めとする構成部品の小形化高性能化の長足の進歩による。本シンポジウムは, 無線機を構成する主要技術分野の現状をまとめるとともに今後の動向を展望する。

- 22-1 携帯機超小形化の展望 平出賢吉 22-2 小形アンテナ 横山幸男 22-3 誘電体フィルタとセラミックフィルタ 西川敏夫 22-4 SAWフィルタ 疋田光孝 22-5 半導体技術 平野 裕 22-6 送信電力増幅器 野島俊雄 22-7 高密度実装技術 二瓶公志 22-8 高エネルギー密度電池 藤井隆文

23. 移動体通信応用システムと測位システムにおける最近の動向

〔座長 森永規彦（阪大）〕

衛星通信の高度利用, 地上の通信媒体の多様化・高度化が目覚ましい。これを応用した移動体通信システムや測位技術による航空機・鉄道等の運行制御システムは近年大きく進歩している。本シンポジウムでは, これらを構成する新技術の主要動向ならびにその応用システムについて将来を展望する。

- 23-1 移動体衛星通信に関する通信路のモデル化と通信方式 原 晋介 森永規彦 23-2 移動体衛星通信用変復調と誤り訂正 加藤修三 守倉正博 久保田周治 23-3 インマルサット移動体衛星通信システムにおけるデジタル変復調と誤り訂正技術 安田 豊 武内良男 23-4 衛星を利用した航空機の運航 石川好美 23-5 二静止衛星を用いた通信・測位複合システム 大森慎吾 23-6 東海道新幹線の新しい列車無線システム 松本和臣
23-7 鉄道における光通信および新周波数帯の利用 佐々木 伸

24. 電源分散化の動向と問題点

〔座長 森 真作（慶応大）〕

スイッチング電源技術の進展により, 電源の小形化, 軽量化が進み, 従来集中的に設置されていた電源を分散して負荷装置近傍に設置することが可能となった。本シンポジウムでは, 電力供給システムの観点から, 電源分散化の利点, 欠点について各種負荷システムごとに考察し, 今後の動向等を討議する。

- 24-1 電源の分散化と問題点 二宮 保 24-2 DC-DCコンバータの分散化と小形化 村上直樹 24-3 国内通信設備における分散電力供給システム 小屋敷 徹 24-4 国際通信中央局における通信用電源設備の集中設置と分散設置の比較 倉根隆裕 24-5 宇宙機器用電源と分散化 小野寺利浩 24-6 計算機用電源と分散化 遠

矢弘和 24-7 放送機器用電源と分散化 佐藤 純

25. バイオセンサの現状と将来

〔座長 松尾正之（電機大）〕

生体のもつ分子識別機能を巧みに利用するバイオセンサは、選択性に優れたセンサとして有望視されており、近年急速な発展を遂げている。既に実用化されている臨床化学分析分野に加え、工業プロセスや環境計測等広範囲の応用が期待される各種バイオセンサの現状を探るとともに、その将来を展望する。

25-1 電気化学バイオセンサ 長 哲郎 25-2 オプティカルバイオセンサ 相沢益男 25-3 バイオエレクトロニクスセンサ 森泉豊栄 25-4 生体化学センサ 栗原堅三 25-5 バイオセンサとしてのエレクトロニクスへの期待 星宮 望 25-6 バイオセンサとしてのマテリアルへの期待 軽部征夫 民谷栄一

26. 超伝導エレクトロニクスの新しい展開

〔座長 小林 猛（阪大）〕

エピタキシャル成膜技術ならびにプロセス技術の急速な進展に支えられて、酸化物高温超伝導体の新しいエレクトロニクス応用の芽が出始めている。本シンポジウムでは、高温超伝導体の特質を効果的に生かした新しい超伝導エレクトロニクス応用の研究成果と薄膜化の最先端研究成果について発表・討論する。

26-1 高温超伝導体の新しいデバイス応用 連尾信也 26-2 近接効果を用いた接合作製 早川尚夫 26-3 高温超伝導センシング素子の開発 善里順信 26-4 選択ヘテロエピタキシと素子応用 作田 健 26-5 高品質薄膜の作製とデバイスへの応用 田中三郎 26-6 高温超伝導伝送線路の特性 森末道忠 26-7 Bi(Sr,Ca)O化合物単結晶の作製・評価とエレクトロニクスへの応用 藤原康文 26-8 薄膜形成用基板材料の研究 宮沢信太郎

27. VLSIのテスト容易化設計技術・フォールトレラント技術

〔座長 榎本志儀（日電）〕

LSIの大規模化・複雑化が進んでいる。同時にLSIテストが極めて深刻な問題となってきた。また故障フリーのLSIを実現する技術も必要となる。VLSI時代に備え、デジタルLSIやメモリのテスト容易化設計技術とそのため

のCAD技術、フォールトレラント技術を議論し、その将来を展望する。

27-1 VLSIのテスト容易化設計技術・フォールトレラント技術、その概要、課題、期待と展望 樹下行三 27-2 デジタルLSIのテスト容易化設計技術、その現状と将来展望 徳田 健 27-3 デジタルLSIのフォールトレラント技術、その現状と将来展望 津田伸生 27-4 メモリLSIのテスト容易化設計技術、その現状と将来展望 高田正日出 27-5 メモリLSIのフォールトレラント技術、その現状と将来展望 山田順三 27-6 テスト容易化のためのCAD技術 河村匡彦

P.1 Fiber-to-the-Home : その展開とサービスの展望

〔座長 羽鳥光俊（東大）〕

加入者系への光ファイバの導入 (Fiber-to-the-Home) が積極的に検討され始めている現時点において、その実現に伴う技術的諸課題ならびに新しいサービスの展望と社会的インパクト等に関し、実際にこれらの問題に取り組んでいる各分野の専門家をパネリストに迎え、最新の状況と話題について広く討論を行う。

P.1-1 光加入者網をめぐる内外情勢と今後の展望 三木哲也 P.1-2 光加入者網における期待されるニューメディアの動向 池沢直樹 P.1-3 光CATVの現状と将来展望 石黒 公 P.1-4 光CATV伝送技術の現状と課題 内海要三 P.1-5 光加入者システムの技術開発における課題 持田侑宏 P.1-6 加入者用光ファイバケーブル技術の現状と展望 川瀬正明 P.1-7 光多重技術の加入者系への応用 鹿田 実

▼〔第5分冊〕予約価 3,400円, (当日価 4,200円)

28. 人間および人工知能における概念形成と知識獲得

〔座長 藤崎博也（東大）〕

人間の概念形成と知識獲得の過程に関し、言語情報および非言語情報の両面から論じる。そして、これらの機能の工学的実現を目指して、人工知能における学習との関連、データベース、CAIへの応用まで、一貫した視点から技術の現状を紹介し、今後の展望を示す。

28-1 総論 大須賀節雄 28-2 言語獲得・概念形成と知識獲得 桐谷 滋 28-3 パターン情報からの概念形成と知識獲得 波多野諠余夫 28-4 概念形成・知識獲得過程の理論 有川節夫 28-5 概念形成と高次学習 志村正道 28-6 データベースにおける知識獲得 西尾章治郎 28-7 CAIにおける知識獲得 大槻説乎

29. フォールトレラントシステム

〔座長 古賀義亮（防衛大）〕

コンピュータシステムの広範囲にわたる重要な分野での利用が進み、信頼性へのニーズがますます高まっている。このような観点から、フォールトレラント技術を採用したシステムが実用化され、サービス・運用に供されるようになった。各種分野に適用されているシステムを中心にシンポジウムを行う。

29-1 トランザクション処理システム 渡辺栄一 29-2 電子交換システム 脇村慶明 29-3 広域ネットワークサービスシステム 中西宏明 29-4 鉄道信号制御用フェールセーフシステム 秋田雄志 29-5 電力制御シ

システム 功力正彦 29-6 リアルタイムネットワークシステム 浜田浩平 29-7 自律分散システムの鉄鋼プラントへの適用 堀 真司 29-8 衛星姿勢制御システム 市川信一郎

30. 「ハイパーメディア」「ハイパーコンピュータ」の動向 〔座長 成田誠之助（早大）〕

ハイパーテキストの発展過程としてマルチメディアを処理可能なコンピュータ・システムが出現する状況になって来た。ソフトウェアの構築とそれをささえるハードウェア、記憶媒体の問題等、主要要素の技術動向について述べる。

30-1 AIとハイパーメディア 欠田光治 30-2 ハイパーテキストとマルチメディア 前川 守 30-3 CD-ROMとCD-ROM-XA 未定 30-4 DVIと動画 唐澤 豊 30-5 ハイパーメディアにおけるソフトウェア 深見拓史 30-6 ハイパーコンピュータの動向 佐藤至弘

31. パターン情報処理における学習と知識獲得 〔鳥脇純一郎（名大）〕

パターン情報処理システムにおいて、学習あるいは知識獲得の過程を組み込むことにより、対象となる環境に柔軟に適應できる知能化されたシステムの実現が可能になると考えられる。本課題では基礎、応用の両面から学習と知識獲得の手法の現状について解説頂き、パターン情報処理の新しい方向性を探る。

31-1 パターン認識における統計的学習 大津展之 31-2 ニューラルネットワークにおける学習 上坂吉則
31-3 CADにおける知識獲得 小林康弘 31-4 画像処理における知識獲得 長谷川純一 31-5 ロボットビジョンにおける知識獲得 未定

32. 分散協調システム＝グループウェア 〔座長 松下 温（慶応大）〕

協調作業を支援するためのコンピュータシステムとしてグループウェアが特に欧米で盛んに研究が行われているが、日本のそれは最近ようやく盛んになりつつある。そこで本シンポジウムは、グループウェアに対する認識を深めるとともに、それに対する研究を活性化することを目的としている。

32-1 グループウェアとは：展望と動向 松下 温 32-2 グループ作業のモデル化 石井 裕 32-3 チーム協調のためのデータベース 松浦宣彦 32-4 GDSS研究の概要 田中公隆 32-5 マルチメディア分散在席会議システム 阪田史郎 32-6 ハイパーメディアのグループウェアの応用 本田克己

P.2 インテリジェントオフィスの展望と課題―試みと運用の体験から― 〔座長 真田英彦（阪大）〕

近年計算機のコンパクト化、高性能化が著しい。そのためオフィスにおいても作業の効率化、快適化を目指してオフィスワーカーの共同作業（会議、設計等）の支援などへの計算機応用が重要視されている。ここでは様々な業種の企業、大学における具体的な体験から、現在の課題と今後の展望について討論を行う。

P.2-1 ニューオフィスの試みと課題 海野吉雄 P.2-2 志木サテライトオフィスの試みと課題 石割寿郎
P.2-3 金融業におけるオフィスシステムの試みと課題 長谷川 隆 P.2-4-1 製造業におけるオフィスシステムの試みと課題(1) 阪田史郎 渡部和雄 前野和俊 P.2-4-2 製造業におけるオフィスシステムの試みと課題(2) 松尾博昭 P.2-5 サービス業におけるオフィスシステムの試みと課題 関 幸治 P.2-6 大学におけるオフィスシステムの試みと課題 大岩 元

P.3 大学等における電子・通信・情報系学科の教育について 〔座長 坂井利之（電谷大）〕

コンピュータをはじめとする新しい技術の急速な発展に伴い、大学等に情報系の学科の設置が相次いでいる。また既存の諸学科の中でも特に関連の深い学科では、教育内容の見直しを迫られている。その現状と問題点を展望し、意見の交換をはかりたい。

P.3-1 情報系学科の制度とカリキュラムについて 野口正一 P.3-2 電子工学のカリキュラムの体系化 菅野卓雄 P.3-3 教育の解放性と成功性 榎本 肇 P.3-4 情報工学の実験・演習 中森真理雄

(注)座長、講演題目、講演者は平成2年4月現在のものです。都合により変わることがあります。

平成2年電気・情報関連学会連合大会日程

(敬称略)

会場番号	8月28日(火) 午前	8月28日(火) 午後	8月29日(水) 午前	8月29日(水) 午後	8月30日(木) 午前	8月30日(木) 午後
第1会場	S.4 インテリジェントビルの自動化と電磁ノイズ対策 座長 折原明男(日建設計)	S.3 熱電気相互変換デバイス技術の進展 座長 梶川武信(電総研)	S.7 システム・制御理論からみた生体系 座長 南谷晴之(慶応大) 佐藤俊輔(阪大)	1時30分～3時10分 特別講演 「常温核融合研究の現状」	S.5 ガス遮断器の最近の技術動向 座長 中西邦雄(電機大)	S.2 太陽光発電の開発動向 座長 山口真史(NTT) 伊藤晴夫(日立)
第2会場	S.6 リニアモーター解析における動向と展望 座長 正田英介(東大)	S.8 気中放電データベースの構築と応用 座長 堀井憲爾(名大)	S.14 光化学産業用光源の現状と将来展望 座長 平本立躬(ウシオ電機)		S.9 鉄道における照明と案内 座長 寺井孝之(新陽社)	S.12 エンジニアリング・プラスチックの電気絶縁分野への応用 座長 水谷照吉(名大)
第3会場	S.13 最近の演照照明の動向—フライトアップ技術— 座長 野口 透(摂南大)	S.17 極限光計測技術 座長 野田寿一(NTT)	S.10 大都市の通勤を楽に、速くするには—都市鉄道の容量・速度決定要因とその改善— 座長 曾根 悟(東大)		S.11 次世代を指向した高性能軟磁性材料とその応用 座長 荒井賢一(東北大)	S.18 快適性の科学 座長 神作 博(中京大)
第4会場	S.15 最近の光集積デバイス 座長 梅野正義(名工大)	S.21 90年代先端ニューメダイア技術の展望 座長 堀内和夫(早大)	S.16 量子効果光デバイスの現状と課題 座長 堺 和夫(KDD) 三上 修(NTT)	3時20分～5時20分 日本学術会議シンポジウム	S.19 最近のテレビジョン放送伝送技術 座長 羽鳥光俊(東大)	S.1 コーゼンエレーション技術の現状と展望 座長 早川一也(建築設備総合協会)
第5会場	S.20 TVカメラの現状と動向 座長 安藤隆男(静岡大)	S.25 バイオセンサの現状と将来 座長 松尾正之(電機大)	S.22 携帯電話小形化回路技術の現状と動向 座長 米山 務(東北大)		S.24 電源分散化の動向と問題点 座長 森 真作(慶応大)	S.23 移動体通信応用システムと測位システムにおける最近の動向 座長 森永規彦(阪大)
第6会場	S.26 超伝導エレクトロニクス新しい展開 座長 小林 猛(阪大)	S.27 VLSIのテスト容易化設計技術・フォールトトレラント技術 座長 榎本忠儀(日電)	P.1 Fiber-to-the-Home: その展開とサービスの展望 座長 羽鳥光俊(東大)	「21世紀の通信網とエレクトロニクス技術への期待」	S.28 人間および人工知能における概念形成と知識獲得 座長 藤崎博也(東大)	S.31 パターン情報処理における学習と知識獲得 座長 鳥脇純一郎(名大)
第7会場	S.29 フォールトトレラントシステム 座長 古賀義亮(防衛大)	P.2 インテリジェントオフィスの展望と課題—試みと運用の体験から— 座長 真田英彦(阪大)	S.30 「ハイパーメディア」「ハイパーコンピュータ」の動向 座長 成田謙之助(早大)		S.32 分散協調システム=グループウェア 座長 松下 温(慶応大)	P.3 大学等における電子・通信・情報系学科の教育について 座長 坂井利之(電谷大)

注1) : 講演時間 午前9時～12時30分 午後1時30分～5時 注2) : 課題頭部のSはシンポジウム講演を、Pはパネル講演を示す。

平成2年電気・情報関連学会連合大会
参加・講演論文集・懇親会予約申込書

予約申込締切日 8月2日(木)

分冊	予約価(円)	部数	金額(円)
第1分冊	3,400		
第2分冊	3,400		
第3分冊	3,500		
第4分冊	3,800		
第5分冊	3,400		
合本	17,500		
大会参加費 (プログラム 参加章)	会 員 1,000		
	学生(大学院含) 500		
	会員外 1,700		
懇親会	一 般 4,000		
	学 生 2,000		
合 計			

(送料は大会委員会で負担します。)

平成2年 月 日

上記の通り予約致します。

1. 代金は 前払(現金・振替・銀行) 後払(該当にレ印および○印)
2. 請求書 通, 納品書 通, 見積書 通, 領収証 通(支払い後)が必要です。
3. 所定の書類が必要なので添付する。所定書類はない。(該当にレ印)

〔送本先〕

住 所 ㊦

氏 名

(担当者名も記入)

TEL ()

支部だより

北海道支部 支部大会講演募集——平成2年度電気関係学会北海道支部連合大会

期 日 平成2年10月6日(土), 7日(日)
会 場 北海道工業大学(札幌市手稲区手稲前田 419-2)
特別講演 インドネシアの光の影 及川 敬一(北海道工大)
講演参加費 1件につき, 発表形式(A)は2,500円, (B)は4,000円. 詳細は前号本欄参照のこと.
原稿締切 8月10日(金)午後5時必着(講演申込書および原稿に参加費を添えて提出すること)
懇親会 10月6日(土)18:00~ ティネオオリンピックハウス2F「レ・ブロー」(会場への無料連絡バスを用意) 会費3,500円(学生2,000円)当日受付

東北支部 支部大会案内——平成2年度電気関係学会東北支部連合大会

期 日 平成2年8月30日(木), 31日(金)
30日(木) 午前: 一般講演・技術報告
午後: 一般講演・技術報告, 見学会, 特別講演 夜: 懇親会
31日(金) 一般講演・技術報告
30, 31日の両日 展示会(計測機器, 電子通信機器, 電力機器他)
会 場 東北学院大学泉キャンパス(仙台市泉区市名坂天神沢 9-1, 地下鉄八乙女駅8番乗場より宮城交通バス泉キャンパス行または松森循環行, 泉キャンパス下車)
論文集 発表者には, 大会当日受付にて配布する. 購入希望者は, 所要部数を早めに申し込むこと(1部2,500円, 郵送希望の場合は, 郵送料1部510円). 詳細は前号本欄参照のこと.
懇親会 8月30日(木)18:00~ 場所 仙台国際ホテル 会費3,000円
申込みは当日大会会場で受け付けます.

中部支部 支部大会講演募集——平成2年度電気関係学会東海支部連合大会

期 日 平成2年10月21日(日), 22日(月)
会 場 名古屋大学工学部(名古屋市千種区不老町)
特別講演(予定) チンパンジーの知能(21日 午後) 松沢 哲郎(京大霊長類研)
シンポジウム(依頼講演)
有機電子材料の現状と将来 座長 水谷 照吉(名大)
新・省エネルギーの現状と将来 座長 菰田 光治(中電)
無線通信に関する最近の話題 座長 小川 明(名大)
ASIC 技術の現状と動向 座長 今井 正治(豊技大)
ニューラルネットワーク情報処理 座長 岩田 彰(名工大)
知識型ビジョンと産業応用 座長 輿水 大和(中京大)
講演参加費 1件につき2,000円. 詳細は前号本欄参照のこと.
原稿締切日 8月8日(水)午後5時(申込書と原稿を同時締切とする)
一般参加費 講演者以外は, 参加費(正会員500円, 会員外800円, 学生無料)を当日受付で支払い, 参加章を受取ること. ただし, 論文集購入者は参加費不要.
論文集予約 代金2,000円を添えて8月31日(金)までに申し込むこと, 事前に引換券を送付し, 論文集は当日渡す. 郵送希望者は, 1冊につき送料510円を加えて送金のこと. 発送は大会終了後.
懇親会 21日(日)夕刻 名古屋大学生協(理系食堂) 会費3,500円(学生2,000円)
参加希望者は当日大会受付で会費を添えて申し込むこと.

講演会

日 時 平成2年8月21日(火) 14:00~16:00
 会 場 名古屋大学 工学部8号館南館2階 情報工科大学院講義室
 演 題 Layout Graph Grammars Prof. Dr. F. J. Brandenburg (Passau 大)
 参加費 無 料 (参加資格は問いません.)
 問合せ先 情報処理学会中部支部 Tel. 052 (204) 4517

中国支部 支部大会講演募集——平成2年度電気関係学会中国支部連合大会

日 時 平成2年10月28日(日) 9:00~17:20
 会 場 岡山大学 (岡山市津島中 3-1-1)
 講演申込料 講演1件につき2,300円(論文集1部, 別刷30部の代金を含む) なお, 別刷は大会当日会場でお渡します。
 原稿締切日 8月31日(金) (講演申込書, 原稿および申込料を同時締切とする。) 詳細は前号本欄参照のこと。
 論文集予約 1部2,000円(送料とも) 8月31日(金) までに代金を添えてお送りください。大会当日での販売部数には限りがありますので, 確実に入手されたい方は予約してください。
 懇親会 10月28日(日) 特別講演終了後, 会費3,000円
 はがきで10月18日(木) までにお申込みください。なお, 会費は当日受付でお支払いください。

九州支部 第2回 若手の会シンポジウム

九州地区の若手の研究者・技術者の親睦をかねて, 下記の要領でシンポジウムを開催いたします。なお, 参加者は, 特に九州地区に限るわけではありません。また, 若手についても特に定義があるわけではありません。計算機, 情報処理技術について将来の展望や夢を語り合いたい方は大いに歓迎いたします。ふるってご参加ください。

日 時 平成2年8月23日(木)~25日(土)
 会 場 湯布院町営 国民宿舎 由布山荘 (大分県大分郡湯布院町大字川上 2927-1
 Tel. 0977 (84) 2105~6)
 参加費 4,000円(現地集合, 現地解散), 定員40名
 申込締切 7月31日(火)
 申込先 812 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学工学部中央計数施設内 情報処理学会九州支部
 Tel. 092 (641) 1101 (内 5985, 5984)

支部大会案内——電気関係学会九州支部第43回連合大会

期 日 平成2年10月16日(火), 17日(水) 9:30~17:30
 会 場 九州工業大学 情報工学部 (飯塚市川津 680-4)
 一般講演 10月16日(火), 17日(水)
 特別講演 10月16日(火) 16:00~17:30
 会場 九州工業大学 情報工学部 500人大講義室
 演題 嘉穂地方の歴史と文化 川添 昭二(九大名誉教授, 福岡大)
 パネル討論 10月16日(火) 13:30~ 題目 情報関連技術教育のありかたについて
 講演申込費 講演1件につき3,000円(講演者には論文集を1部大会当日受付にて贈呈する。別刷の申込には応じない)。詳細は前号本欄参照のこと。
 原稿締切日 8月27日(月) 午後5時(原稿, 講演申込書, 講演申込費必着)
 懇親会 10月16日(火) 18:30~20:30
 会場 のがみプレジデントホテル (飯塚市新立岩 12-37, Tel. 0948 (22) 3840)
 会費 4,000円(同伴家族・学生 2,000円)

見学会 10月16日, 17日

場 所 九州工業大学情報工学部

情報工学部のキャンパスの見学会を行います。定時(日に数回)に集合場所に集合した方を、構内の主要施設にご案内します。

参加費 無 料

交通・宿泊 九工大までの航空券, 宿泊の斡旋を九工大生協が行います。ご希望の方は、下記にご連絡ください。
九州工業大学生生活共同組合 飯塚店(住所は大学と同じ)

Tel. 0948 (24) 8424 (内 2382), Fax 0948 (29) 3763 担当 山下, 黒坪

備 考

(1) 論文集申込 論文集: 1部3,000円。予約を原則としていますので、8月27日(月)までに必ず代金を添えてお申込みください。なお、郵送希望者は1冊につき送料360円を添えること。発送は大会終了後になります。

(2) 懇親会希望者は9月29日(土)までに代金を添えてお申込みください。

(3) 論文集および懇親会申込先

812 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学工学部電気工学教室内 電気関係学会九州支部連合会
(振替口座番号 福岡 8-33001) Tel. 092 (641) 1101 (内 5300) 担当 湯浅

なお、振替口座ご利用の際には郵便局にて発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

本会協賛等の行事案内*

システム制御情報チュートリアル講座イーブニングスクール(G)コース「ニューラルネットワークの基礎」

平成2年9月3日(月), 6日(木), 10日(月), 12日(水), 17日(月)

エル・おおさか

第11回 人工知能セミナー

平成2年9月21日(金)

大阪・三田出版会

講習会「ファジィとニューラルネットの接点を探る」

平成2年10月22日(月)

大阪・三田出版会

第5回 生体・生理工学シンポジウム

平成2年11月26日(月)~27日(火)

福岡リーセントホテル

第6回 光波センシング技術研究会

平成2年12月10日(月)~11日(火)

東京・建築会館ホール

情報理論とその応用学会第13回 シンポジウム

平成3年1月23日(水)~26日(土)

長野・蓼科パークホテル

ワールドテクノフェアイン千葉 '91

平成3年1月31日(木)~2月3日(日)

千葉・幕張メッセ

* 詳細は本号会議案内欄参照

情報処理学会研究報告，全国大会講演論文集，シンポジウム論文集 および学会単独主催の国際会議 Proceedings に掲載された論文等 の著作権の取扱いについて

標記学会出版物に掲載された論文等の著作権の取扱いについては、これまで明文化されたものではありませんでしたが、慣行として学会誌、論文誌、欧文誌等の機関誌に掲載された論文等の取扱いを準用しております。

しかしながら、国内外での科学技術情報の交流の拡大に伴い、標記論文等についても転載の許諾を求める要請が増加するとともに、無断複写（コピー）等の著作権の侵害もまた増加することが考えられますので、標記論文等についても著者に不利益が生じることのないよう十分な配慮を払うと共に、著作権の侵害に対し学会が対応できるようにするため、具体的な措置として機関誌原稿執筆案内（学会誌4月号巻末参照）の著作権に関する規程を準用して下記の規程を設けることといたしました。

つきましては、平成2年8月以降投稿された標記論文等の著作権は原則として情報処理学会に帰属するものとなります。また、これまでに掲載された論文および投稿中で今後掲載された論文につきましても、必要な場合には本制度の趣旨にかんがみ規程を準用させていただきよう会員各位のご了承をお願いいたします。

なお、特別の理由でこの措置を希望されない著者の方は、甚だお手数ですが、平成2年7月末日までに、本会にその旨書面でお申出くださるようお願い申し上げます。

記

情報処理学会研究報告，全国大会講演論文集，シンポジウム論文集 および学会単独主催の国際会議 Proceedings に掲載された論文等 の著作権の取扱い

1 著作権の帰属

- (1) 標記学会出版物に掲載された論文等（以下論文等という）の著作権は原則として本学会に帰属する。
- (2) 特別な事情により前項の原則が適用できない場合は著者と本学会との間で協議の上措置する。なお特別な事情としては次のような例を想定する。
 - 依頼論文等であって、その内容が著者個人でなく著者の所属する法人等に係るもので、著作権の本会への移転帰属に関し当該法人等の了解が得られない場合。
 - 特別講演記事などで著者の了解が得られない場合。

2 著作権の本学会への移転帰属による運用効果 および運用上の措置等

- (1) 論文等の著作権は本学会に帰属するが、著作者人格権は著者に帰属する。ただし、著者が著者自身の論文等を複製・翻訳等の形で利用することに対し、本学会はこれに異議申立て、もしくは妨げることをしない。この場合著者は本学会に申し出を行い、また利用された複製物あるいは著作物中に出典

を明記すること。

- (2) 本学会は論文等の複製をおこなうことができる。但しこの場合関係する著者にその旨了解を得る。
- (3) 第三者から論文等の複製あるいは翻訳等の許諾要請があった場合、本学会は理事会において審議し、適当と認めたものについて要望に応ずることができる。但しこの場合関係する著者にその旨了解を得る。
- (4) 前項の措置によって、第三者から本学会に対価の支払があった場合には関係する著者に報告の上、本学会会計に繰り入れ学会活動に有効に活用する。

3 著作権侵害等に関する注意事項

- (1) 執筆に当たっては他人の著作権の侵害、名誉毀損、その他の問題を生じないように十分に配慮すること。
- (2) 著者は公表された著作物を引用することができる。引用した場合はその出典を明示すること。
- (3) 万一、執筆内容が第三者の著作権を侵害するなどの指摘がなされ、第三者に損害を与えた場合著者がその責を負う。